

南部地区中学校の統合計画が動き出す 面積確保と用地買収がカギ

中学校統合が本格的に始動した。これは平成18年に発表された「佐渡市小学校・中学校統合計画」を基にして、学校耐震構造検査（平成21年）の調査結果を加味しながら、実施時期および統合・新築方法が検討されてきたものである。中でも羽茂中学校については、建設年次が古いことや耐震構造に問題があることから、南部3中学校の統合を決定し、地域審議会や南部中学校統合検討委員会の議論を経て、現在は南部中学校建設検討委員会の場で建設用地選定作業に入っている。

調査した建設予定候補地は全て問題あり

建設用地選定には最低3つの条件がある。一つは必要な面積が確保できること。二つ目は借地でなく買収が可能なこと。三つ目は統合する地域住民の納得が得られること。

面積については概ね3haが必要で、総合体育館仕様だと駐車場を含め更に増加する。また借地契約については合併特別債事業に該当せず、将来に負担を残すばかりか、全額佐渡市の負担となる。三つ目の市民感情への配慮も重要だ。既に我々は小学校統合を行った、この上更に中学校の遠距離通学が発生する。該当地域の負担軽減を図ることが必要である。

既に行政は、4地区を候補地としてコンサルによる現地調査を行っている。大石地区の埋め立て地、現羽茂中学校跡地、大石沖田地と、それに現赤泊中学校の利用である。

その結果、大石埋め立て地は軟弱基盤と用地の海水噴出対策等で6.2億円、大石沖田地は強風対策や買収・埋め立て費用で6.8億円が、羽茂中学校跡地は面積が不足（約1.5ha）するなど、全てが「問題あり」という結論である。

学校建設の正否は用地買収如何だ

学校建設の今後のスケジュールは概ね次の通りである。平成22年度中に用地買収を完了し、平成23年度には実施計画（設計）を作成、平成24～25年度に建設工事を行い、平成26年4月開校の予定である。なかでも、用地取得の段階では、農振除外手続きや埋蔵文化財の県申請など、その事務処理にはかなり長期間が必要なことから、用地買収交渉を本年の遅くとも8・9月頃までに終了したい意向である。

これらを受け5月13日、第1回南部中学校建設検討委員会が開催された。また6月2日には、羽茂地区だけの建設検討委員会委員が会合し、私たち議員2名もオブザーバーで参加した。その中では、全委員が南部中学（仮称）校建設を成功させるため、地元住民として最高の場所と環境を提供できるように努力することを意思統一すると共に、新たな土地を含め早急に建設予定地を選定することを確認した。

今回の中学校統合は、南部地区の中等教育の拠点作りとしても重要で、子供たちのためにも素晴らしい教育環境を提供する必要がある。その鍵を握るのが地権者の協力である。

平成30年地域別生徒数見込み

	平成23年(計画時)				平成30年(計画時)			
	生徒数				生徒数			
	小木	羽茂	赤泊	計	小木	羽茂	赤泊	計
1年	30	27	30	87	13	13	14	40
2年	24	31	17	72	12	20	17	49
3年	25	25	23	73	14	13	18	45
計	79	83	70	232	39	46	49	134

中学校統合検討委員会の結論

平成21年10月19日

南部地区中学校統合について慎重に検討した結果、各地区の事情も異なり、現時点では3校の統合合意は困難である。
しかしながら、小木小学校、羽茂中学校については耐震補強工事が必要であり、児童生徒の安全・安心を第一に考えたとき、既存の赤泊中学校への統合も視野に入れ検討したが通学距離の問題から合意するに至らなかった。
そこで、まずは小木中学校と羽茂中学校を統合し新校舎に通学させることとし、赤泊中学校に関しては、後期の統合に向けて協議を継続する。

地域審議会の中学校統合意向結果

平成21年12月7日

南部地区中学校統合の地域審議会意向結果	
小木	・統合に向け、南部地区中学校統合検討委員会の意向に賛成する。 ・統合の土地についても地域審議会に相談・報告をいただく。
羽茂	・学校統合について異論はない ・3地区の意見をよく聞いて慎重に実施する。
赤泊	・学校統合は南部地区中学校統合検討委員会の意見に賛成する。 ・後期の統合に向け協議を赤泊地区全体で検討していく。

議会の内・外 こぼれ話

6月15日、草刈り神社の例祭が行われた。祭りの棚やノボリ、御神燈はそれぞれの神社が行っている（草刈神社は幾つかの神社が統合されたもの）。中でも御神燈は、尾平、井上神社と五所神社が張り出すが、ユニークなのは尾平神社の御神燈である。

毎年過激になり、周囲もハラハラしながら眺めている。作風も工夫され、ヘアー等見せられない部分に簾を付ける凝りようだ。嘗て、この絵によって町長選挙が決まったことさえある位である。

数年前のこと、私がおの御神燈を見に行った時、見たことのある人が御神燈をジッと眺めていた、作家の椎名誠さんである。以来、尾平神社の御神燈の絵が楽しみである。しかし今年五所神社の「つぶるの頭」を描いた御神燈にやや及ばず・・・か。